

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870800123
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会
事業所名	ウエルネス木村 (ユニット:まごころ)
所在地	福井県あわら市自由ヶ丘2-15-23
自己評価作成日	令和5年11月25日
評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方が在宅の延長として、施設での生活の中に家庭的な雰囲気を感じて頂けるように努めています。個性や生活リズムを崩すことなく安心して過ごして頂けるように、個人を尊重しご本人の意思決定に従い出来る限り毎日を楽しく過ごせるように支援しています。そして、入居されることで社会から孤立しないように地域のイベントなどの参加には積極的に足を運ぶように努めています。学童の下校に合わせ散歩に出掛け見守りをしたり、来年3月の新幹線開通に伴い駅構内の見学にも足を運びました。また、脳の活性化を促し維持できるようにくもん学習療法は継続しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和5年12月20日

事業所は芦原温泉駅の近くにあり来春には北陸新幹線の行き来を見ることが出来る。周辺には住宅街が広がっており、小学校や認定こども園も近く、学童の登下校の姿を見ることが出来る。建物は在宅複合型ケアハウスの2階にあり、1階には通所介護、玄関前には畑があり利用者は季節の野菜作りを楽しんでいる。職員は禁止用語言い換えリストを作成したり、利用者の家族に読んでもらえるようわかりやすい介護記録の研修に参加するなど、レベルアップに努めている。施設内では事業所間の連携が取れており、通所介護の送迎車両での外出や機械浴の利用、屋上にあるケアハウスの露天風呂を利用することもできる。施設全体でベテラン職員による夜勤リーダーを配置し夜間の緊急事には連携した対応を行っている。利用者、家族とは様々な方法で要望・思いを聞き利用者本位の支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、フロアーに掲示しいつでも職員が復唱出来るようにしている。	事業所独自の理念があり、見直し等の話し合いの機会も持っている。理念は2階エレベーターの正面と、フロアーに掲示し、朝礼でも唱和している。また毎月の目標を設定し業務に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日中の人口が少ない新興住宅地の中にあり、交流の機会が得にくい、同じ建物内の通所介護事業所やケアハウスの利用者などと日常的に交流を行っている。また、災害時における地域住民の協力体制ができています。地域で行われる行事には積極的に参加し、近隣の児童さんの登下校時の見守り隊としての関わりを行っている。	コロナ禍以前は近隣の児童の登下校時の見守り活動や民生委員主催のサロンへの参加を行っていたが、現在はできていないため、運営推進会議を開催し区長、民生委員に情報を発信している。	コロナ禍により交流が出来ない状態が続いている。今後は以前のように地域活動に積極的に関わり、地域住民との関わりを持つことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症についての勉強会を開催する予定。地域の方にも参加の声を掛けていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、坂井地区広域連合職員に参加して促して、2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの運営状況を報告後、各委員が自由に意見交換し、活発な会議となっている。議事録についても分かりやすくまとめ、全家族に送付している。	利用者家族が参加しやすい土曜日の午後に開催している。参加できない家族には事前に意見を求める文書を返信用封筒と共に送っており、様々な意見が出されている。議事録もわかりやすく記録している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の地域包括支援センターの職員が、運営推進会議のメンバーであり、会議の際に意見交換をしている。	地域包括支援センターや介護保険広域連合に運営や制度について相談している。コロナ禍前は民生委員2名があわら市から相談員として定期的に訪問していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2Fの出入り口のエレベーターは暗証番号で管理されているが、エレベーターまでの玄関ドアは開放されている。また南北のベランダは洗濯物を干したり自由に出入りできるように開放されている。入居者の行動の変化を見守り、散歩や外出に付き添っている。施設が定める身体拘束等の適正化に関する指針に従って委員会活動、研修を行っている。	2階エレベーターのボタンは暗証番号で管理されているが事業所内のドアは解放されており2つのユニットは自由に行き来できる。イラスト入りの禁止用語言い換えリスト作成し掲示するなど委員会活動や研修会を行い職員の利用者への対応向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設が定める身体拘束等の適正化に関する指針に従って委員会活動、研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設内で内部研修を行い、職員の疑問に答え内容の理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に、十分な説明を行い、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議、意見箱、面会時の意見聴取、満足度アンケートで意見・要望の収集に努めている。内容については推進会議、運営会議等で検討し運営に反映させている。	家族には意見を求める書面を返信用封筒とともに毎月の便りで郵送しており、会議に参加できない家族からの意見が送られてくる。月1回座談会の日を設け、利用者から外出や行事食などの意見を聞き、運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開いている。意見や提案を挙げ話し合い、業務や運営に反映させている。また、職員個人の反省を掲げる事で入居者の方の立場にたった提案が出来るように努めている。	月1回カンファレンスを開いている。各自の意見の振り返りや見直しができるよう議事録を作成し、運営に反映させている。管理者は日々の業務では職員個人の思いをくみ取るよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時、職員1人ひとりと相談や個別面談の機会を設け、問題解決に努めている。職員には労働時間の超過にならないように促したり、休憩時間をきちんと確保出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修は毎月行っている。また、外部への研修も、順番に研修に参加している。職員には資格の取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク坂井を通じて他施設間での情報交換や事例研究等の勉強会に参加している。また、外部からの研修案内に応じて随時参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前には本人、家人との面接を行い、生活状況の確認を行っている。その際、要望や困っていることを把握している。可能な限り、事前にGHの見学も行って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前には本人、家人との面接を行い、生活状況の確認を行っている。その際、要望や困っていることを把握している。可能な限り、事前にGHの見学も行って頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的なりハビリが必要な利用者で、希望があれば協力病院のリハビリの利用を行う等、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や居室掃除は共同で行い、自炊やおやつ作りを通して一緒に食事をしたり調理を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には本人様の状況をお伝えしたり、カルテの開示を行い、近況を報告している。また、家人の要望も参考に、支援方法を話しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人には可能な限りライン面会等を利用しながら、コロナの状況に応じて本人様の友人や、兄弟、姉妹、孫さんも面会に来ている。	コロナ禍ではラインによる面会だったが、現在はホールでの面会を行っている。家族から利用者の居室での様子を見たいとの希望に対し動画撮影を行うなど個々の希望に対応している。年賀状、電話等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方の性格やその場での状況を把握しながら、職員と一緒に手作業や関わりをもちお互いの関係性が良好に保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内でのフロア移動後には、情報を共有しながらご本人やご家族の方との関わりが持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人からも意見を聴取するなど、グループホームでの生活はどうか尋ねている。困難な場合は、担当の職員や家族を含めてカンファレンスを開き、話し合いを行っている。	担当職員が夜間の静かな環境で、個々の思いを聞き取ったり、月1回の座談会で利用者一人一人の思いをくみ取っている。意向の把握が困難な場合は家族や担当職員が話し合って検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、その情報はカルテに記載を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの立案前に、本人の状態について話し合いを行ってから支援の方向性を決めている。状態の悪化や変化が見られた場合は適宜話し合い、支援方法を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立てる場合、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。家人にも面会時や書面にて意向を聞き、できる限り家人の参加を促している。その後、担当の職員を含めて必要に応じて多職種でカンファレンスを開き、話し合いを行っている。	毎月のモニタリングは、課題ごとに達成状況を文章で記載しており、意見やアイデアを把握しやすいよう工夫している。家族にも面会時や書面で意向を聞き、記録しておりそれぞれの思いを反映したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録は、日中夜間に分けて記録を行っている。1ヶ月毎の評価をしながら6ヶ月毎にプラン作成の為に担当者会議の他、適宜カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門的なりハビリが必要な利用者で、希望があれば協力病院のリハビリの利用を行う等、対応に努めている。又、希望者はくもん学習療法に取り組んでいる。また、あわら市からの介護相談員の派遣があれば受け入れていく方向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が緩和され、地域での夏祭りや公民館での在宅者向けのリハビリを兼ねたレクリエーションにも参加をしていく方向である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や、利用者の希望する医療機関を確認し受診を行っている。	協力医への受診は職員が同行している。かかりつけ医受診を希望される場合は家族と共に職員が同行し、医師との関係を築いている。協力医の回診が週1回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や介護上の身体状況の変化を看護職員と共有しながら、早期の異常発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護経過や口頭での情報説明などを行っている。また、退院までの間は入院中の経過の把握ができるように病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ内に協力病院があるため、医療的なケア(胃瘻、24時間点滴の管理等)が必要な場合は、入院や、他施設への移動を行うことで家人には了解を得ている。又、身体面や、医療面の状況を家人に伝え、今後の生活支援の方向性について早めに話しあっている。	入所時、事業所が対応し得る最大のケアについて家族に説明を行っている。夜間でも吸痰の出来る職員体制を取ることはできるが、胃瘻、24時間点滴の管理等医療的なケアはできない為、転居への支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の手順に沿っての勉強会を実施しながら、職員が不安なく対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。(内1回は夜間想定)地域の方の参加は検討しながら見学を進めていく。	消防署の協力を得て避難経路の確認等、併設施設全体での避難訓練を年2回実施している。併設施設全体で、ベテラン職員による夜勤リーダーがおり、夜間の災害時にも施設全体の協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	愛情と対話の施設理念に基づき、ご利用者に対しては敬語を心がけ安心感を与える言葉かけに努めている。	イラスト入りの禁止用語言い換えリストを見やすい場所に掲示し新人職員でも利用者の誇りを損ねない対応ができるよう努めている。居室には施錠できるトイレや洗面台があり利用者個人の人格を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と関わりながら会話や表情を通じて考えや思いを引き出す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月1回の座談会を開催し、日々の暮らしに於いて利用者の思いや意向を聞き出すことに努めている。お茶やお菓子を提供しながら何でも話せる雰囲気を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クローゼット内の衣服は自由に出し入れできるように環境を整え、女性には乳液や化粧品など在宅で使用されていた物を持ち込んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自炊の日、おやつ作りの日を設け利用者が調理する楽しみを味わうことで食欲に繋げている。盛り付け、配膳等においては出来る役割を分担しながら声掛けや支援を行っている。	月1回自炊の日があり、朝・昼・夜の食事を利用者が調理している。メニューは座談会で話し合っ決めていく。平素は施設厨房から個々の状態に合わせた副食が提供され主食と朝の味噌汁は事業所で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はチェック表に記載し、定期的に体重測定を行っている。栄養の偏り、摂取量低下がある場合は栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。義歯に関しては、就寝前には洗剤を使用し清潔に努めている。義歯や残歯の状態に応じてブラシやハミングッドなど使用しうがいタイプの洗浄液も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがある為、プライバシーは保たれている。排泄については失禁の有無を確認したり、排泄チェック表を用いて、個別の誘導時間を設定している。	各居室に施錠できるトイレがあり利用者は自室での排泄を行っている。職員は水洗の音などで排泄を確認し排泄チェック表に記録することで誘導時間を設定し、排泄の失敗を防ぐよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの中にリハビリ体操などを取り入れ身体全体を使う工夫をしたり、ベッドでの腹部マッサージを取り入れている。乳製品などを取り入れたり水分補給も促し、チェック表で水分量や、排便があったかどうかの確認も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は火金(午前と午後)、水土(午前)に行い、機械浴が必要な方と感染症の方は個別に対応している。また随時、希望があれば入浴可能である。	事業所の浴室は広々しており、利用者間で誘い合って湯船にゆっくりつかることができる。機械浴は併設施設の浴室を利用し安全に入浴できる。施設屋上に露天風呂があり、希望すれば入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯には残置灯を利用し柔らかい灯りで安心して就寝できるように努め、昼食後には排泄を済ませゆっくり休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートやカルテに通院時の薬の情報を記載しているので、職員は目を通して業務にあたっている。本人の状態も申し送り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活習慣に合わせた家事の役割分担を行い、季節に応じた畑作りや花壇作りで生活に変化を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前の畑で季節の野菜やお花を栽培し、収穫後は日々の調理に使用している。バスでの外出では住み慣れた地域へのドライブなど出来る限りご本人の意向にそった計画に努めている。	施設前に広い畑があり、季節の野菜が作られ、利用者は草取りや芋ほりなどの作業に参加している。感染症対策で思うように外出できないが、併設施設が所有する車両がバスも含め複数あり利用者の意向に沿った少人数、多人数での外出を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内で管理し、外部業者(生協)や外出時に手渡し購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月発行するGH便りに自筆のお手紙を同封して日々の生活状況が分かるように支援している。年賀状も送付予定である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者同士が、同じ話題でコミュニケーションがとれるように、掲示板を利用し行事やレクリエーションを撮影したものを掲示している。また、廊下やフロア空間には季節感を感じて頂けるように創作物を掲示している。	玄関は2つのユニットの共通のフロアがあり季節を感じる飾り付けを行っている。居間は広々としているが、ドアや厨房の仕切り等は木製のため温かみを感じる。手作りおやつや、レクリエーションの写真が飾っており、日々の生活を感じる事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間に座布団や、座椅子を置いたり、共用フロアに本棚をおいたりとくつろげるように工夫を試みている。また、ひとり用のソファを使用しながら個人の居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた小物やアルバムなど在宅での生活に近い環境を提供している。家具のレイアウトなどご家族の意見を取り入れながら危険がない動線努めている。	居室内にトイレと洗面所、大きなクローゼットがあり、利用者は好みのものを置いている。室内は広々としておりコロナ禍以前は家族が利用者とともに居室での宿泊も行ってた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋はバリアフリーでゆとりを持った造りとなっていて、車椅子の利用者の方でも移動が行いやすくなっている。室内内やフロアの床材に、転倒時の衝撃を緩和できるクッションシートを使用している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870800123		
法人名	社会福祉法人 坂井福祉会		
事業所名	ウエルネス木村 (ユニット: やすらぎ)		
所在地	福井県あわら市自由ヶ丘2-15-23		
自己評価作成日	令和5年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方が在宅の延長として、施設での生活の中に家庭医的な雰囲気を感じて頂けるように努めています。個性や生活リズムを崩すことなく安心して過ごして頂けるように、個人を尊重しご本人の意思決定に従い出来る限り毎日を楽しく過ごせるように支援しています。そして、入居されることで社会から孤立しないように地域のイベントなどの参加には積極的に足を運ぶように努めています。学童の下校に合わせ散歩に出掛け見守りをしたり、来年3月の新幹線開通に伴い駅構内の見学にも足を運びました。また、脳の活性化を促し維持できるようにくもん学習療法は継続しています。

まごころユニットと同様

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、フロアーに掲示しいつでも職員が復唱出来るようにしている。	まごころユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日中の人口が少ない新興住宅地の中にあり、交流の機会が得にくいですが、同じ建物内の通所介護事業所やケアハウスの利用者などと日常的に交流を行っている。また、災害時における地域住民の協力体制ができています。地域で行われる行事には積極的に参加し、近隣の児童さんの登下校時の見守り隊としての関わりを行っている。	まごころユニットと同様	まごころユニットと同様
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症についての勉強会を開催する予定。地域の方にも参加の声を掛けていく。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、坂井地区広域連合職員に参加して促して、2ヶ月毎に開催している。会議ではホームの運営状況を報告後、各委員が自由に意見交換し、活発な会議となっている。議事録についても分かりやすくまとめ、全家族に送付している。	まごころユニットと同様	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の地域包括支援センターの職員が、運営推進会議のメンバーであり、会議の際に意見交換をしている。	まごころユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2Fの出入り口のエレベーターは暗証番号で管理されているが、エレベーターまでの玄関ドアは開放されている。また南北のベランダは洗濯物を干したり自由に出入りできるように開放されている。入居者の行動の変化を見守り、散歩や外出に付き添っている。施設が定める身体拘束等の適正化に関する指針に従って委員会活動、研修を行っている。	まごころユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設が定める身体拘束等の適正化に関する指針に従って委員会活動、研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自施設内で内部研修を行い、職員の疑問に答え内容の理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を基に、十分な説明を行い、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議、意見箱、面会時の意見聴取、満足度アンケートで意見・要望の収集に努めている。内容については推進会議、運営会議等で検討し運営に反映させている。	まごころユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを開いている。意見や提案を挙げ話し合い、業務や運営に反映させている。また、職員個人の反省を掲げる事で入居者の方の立場にたった提案が出来るように努めている。	まごころユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適時、職員1人ひとりと相談や個別面談の機会を設け、問題解決に努めている。職員には労働時間の超過にならないように促したり、休憩時間をきちんと確保出来るように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自施設での研修は毎月行っている。また、外部への研修も、順番に研修に参加している。職員には資格の取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク坂井を通じて他施設間での情報交換や事例研究等の勉強会に参加している。また、外部からの研修案内に応じて随時参加を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前には本人、家人との面接を行い、生活状況の確認を行っている。その際、要望や困っていることを把握している。可能な限り、事前にGHの見学も行って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前には本人、家人との面接を行い、生活状況の確認を行っている。その際、要望や困っていることを把握している。可能な限り、事前にGHの見学も行って頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門的なりハビリが必要な利用者で、希望があれば協力病院のリハビリの利用を行う等、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や居室掃除は共同で行い、自炊やおやつ作りを通して一緒に食事をしたり調理を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には本人様の状況をお伝えしたり、カルテの開示を行い、近況を報告している。また、家人の要望も参考に、支援方法を話しあっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家人には可能な限りライン面会等を利用しながら、コロナの状況に応じて本人様の友人や、兄弟、姉妹、孫さんも面会に来ている。	まごころユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居されている方の性格やその場での状況を把握しながら、職員と一緒に手作業や関わりをもちお互いの関係性が良好に保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同施設内でのフロア移動後には、情報を共有しながらご本人やご家族の方との関わりが持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる場合には、継続的に本人からも意見を聴取するなど、グループホームでの生活はどうか尋ねている。困難な場合は、担当の職員や家族を含めてカンファレンスを開き、話し合いを行っている。	まごころユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りを行い、その情報はカルテに記載を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの立案前に、本人の状態について話し合いを行ってから支援の方向性を決めている。状態の悪化や変化が見られた場合は適宜話し合い、支援方法を決めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを立てる場合、継続的に本人の様子を伺ったり、グループホームでの生活はどうか尋ねている。家人にも面会時や書面にて意向を聞き、できる限り家人の参加を促している。その後、担当の職員を含めて必要に応じて多職種でカンファレンスを開き、話し合いを行っている。	まごころユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録は、日中夜間に分けて記録を行っている。1ヶ月毎の評価をしながら6ヶ月毎にプラン作成の為の担当者会議の他、適宜カンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門的なリハビリが必要な利用者で、希望があれば協力病院のリハビリの利用を行う等、対応に努めている。又、希望者はくもん学習療法に取り組んでいる。また、あわら市からの介護相談員の派遣があれば受け入れていく方向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍が緩和され、地域での夏祭りや公民館での在宅者向けのリハビリを兼ねたレクリエーションにも参加をしていく方向である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や、利用者の希望する医療機関を確認し受診を行っている。	まごころユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や介護上の身体状況の変化を看護職員と共有しながら、早期の異常発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、看護経過や口頭での情報説明などを行っている。また、退院までの間は入院中の経過の把握ができるように病院との情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループ内に協力病院があるため、医療的なケア(胃瘻、24時間点滴の管理等)が必要な場合は、入院や、他施設への移動を行うことで家人には了解を得ている。又、身体面や、医療面の状況を家人に伝え、今後の生活支援の方向性について早めに話しあっている。	まごころユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の手順に沿っての勉強会を実施しながら、職員が不安なく対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。(内1回は夜間想定)地域の方の参加は検討しながら見学を進めていく。	まごころユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	愛情と対話の施設理念に基づき、ご利用者に対しては敬語を心がけ安心感を与える言葉かけに努めている。	まごころユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者と関わりながら会話や表情を通じて考えや思いを引き出す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月1回の座談会を開催し、日々の暮らしに於いて利用者の思いや意向を聞き出すことに努めている。お茶やお菓子を提供しながら何でも話せる雰囲気を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	クローゼット内の衣服は自由に出し入れできるように環境を整え、女性には乳液や化粧品など在宅で使用されていた物を持ち込んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自炊の日、おやつ作りの日を設け利用者が調理する楽しみを味わうことで食欲に繋げている。盛り付け、配膳等においては出来る役割を分担しながら声掛けや支援を行っている。	まごころユニットと同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はチェック表に記載し、定期的に体重測定を行っている。栄養の偏り、摂取量低下がある場合は栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。義歯に関しては、就寝前には洗浄剤を使用し清潔に努めている。義歯や残歯の状態に応じてブラシやハミングッドなど使用しうがいタイプの洗浄液も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがある為、プライバシーは保たれている。排泄については失禁の有無を確認したり、排泄チェック表を用いて、個別の誘導時間を設定している。	まごころユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの中にリハビリ体操などを取り入れ身体全体を使う工夫をしたり、ベッドでの腹部マッサージを取り入れている。乳製品などを取り入れたり水分補給も促し、チェック表で水分量や、排便があったかどうかの確認も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は火金(午前と午後)、水金(午前)に行い、機械浴が必要な方と感染症の方は個別に対応している。また随時、希望があれば入浴可能である。	まごころユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯には残置灯を利用し柔らかい灯りで安心して就寝できるように努め、昼食後には排泄を済ませゆっくり休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡ノートやカルテに通院時の薬の情報を記載しているので、職員は目を通して業務にあたっている。本人の状態も申し送り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活習慣に合わせた家事の役割分担を行い、季節に応じた畑作りや花壇作りで生活に変化を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設前の畑で季節の野菜やお花を栽培し、収穫後は日々の調理に使用している。バスでの外出では住み慣れた地域へのドライブなど出来る限りご本人の意向にそった計画に努めている。	まごころユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内で管理し、外部業者(生協)や外出時に手渡し購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月発行するGH便りに自筆のお手紙を同封して日々の生活状況が分かるように支援している。年賀状も送付予定である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者同士が、同じ話題でコミュニケーションがとれるように、掲示板を利用し行事やレクリエーションを撮影したものを掲示している。また、廊下やフロア空間には季節感を感じて頂けるように創作物を掲示している。	まごころユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間に座布団や、座椅子を置いたり、共用フロアに本棚をおいたりとくつろげるように工夫を試みている。また、ひとり用のソファを使用しながら個人の居場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた小物やアルバムなど在宅での生活に近い環境を提供している。家具のレイアウトなどご家族の意見を取り入れながら危険がない動線努めている。	まごころユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋はバリアフリーでゆとりを持った造りとなっていて、車椅子の利用者の方でも移動が行いやすくなっている。居室内やフロアの床材に、転倒時の衝撃を緩和できるクッションシートを使用している。		